

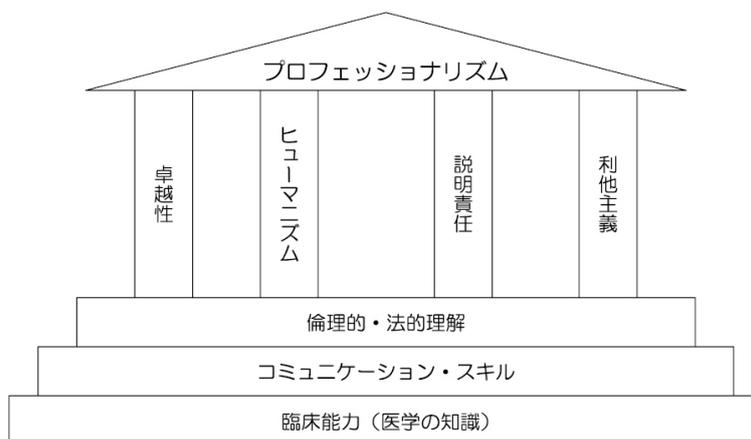
倫理規定に関する決め事には、専門職、プロフェッショナリズムの理解が必須であるため、以下の根拠に基づき、倫理規定を作成しました。

古典的な専門職の定義： 伊勢田が専門職の特徴として挙げるのは以下の6項である。

- (1) 体系的な理論をもつ
- (2) 権威をもつ
- (3) 社会的に認められた特権をもつ
- (4) 倫理綱領をもつ
- (5) 文化をもつ
- (6) 社会にとって重要なサービスを行う

専門職業人集団とは本質的に「閉じた社会」(ベルクソン)であり、かつ専門知に基づいて形成されるがゆえに、二重の意味で外部からの批判を受けにくい。閉じた社会では、腐敗と特権の濫用というリスク(モラル・ハザード)を避け、自律を保証するものとして、専門職には「倫理綱領」をもつことが要求されてきた。

プロフェッショナリズムには唯一の定義はなく、すべての要素が含まれ、かつ広く合意の得られた定義は提示されていない。比較的によく引用されるのは、Arnold と Stern によって提示された定義(図1)や新ミレニアムにおける医のプロフェッショナリズム：医師憲章(表1)である。これらもプロフェッショナリズムのすべての要素を包括的・網羅的に示したものではない。



卓越性	; 知識・技術に秀でる。スタンダードを超えることを追求する。 → 生涯学習; 自己主導的活動、情報探索能力
ヒューマニズム	; 尊敬・共感・思いやり・敬意・誠実性を備える。
説明責任	; 自分の活動を正当化し責任をとる。患者・社会のニーズに応える。
利他主義	; 自己の利益ではなく、患者の利益を優先する。

表1 新ミレニアムにおける医のプロフェッショナリズム：医師憲章

図1 Arnold と Stern によるプロフェッショナリズムの概念図

3つの基本的原則
(1) 患者の福利優先の原則
(2) 患者の自律性に関する原則
(3) 社会正義の原則
プロフェッショナルとしての10の責務
①プロフェッショナルとしての能力に関する責務（常に学び続け、最善の能力を維持し続ける）
②患者に対して正直である責務
③患者の秘密を守る責務（守秘義務）
④患者との適切な関係を維持する責務
⑤医療の質を向上させる責務
⑥医療へのアクセスを向上させる責務（地域医療など）
⑦有限の医療資源の適正配置に関する責務
⑧科学的な知識に関する責務（医学・臨床研究）
⑨利害の衝突の管理により信頼を維持する責務（利益相反、製薬会社との適切な関係維持など）
⑩プロフェッショナルの責任を果たす責務（仲間や後進を育成する義務、自己規制）

表2 Swickによる規範に基づいた定義（参考資料）

①自己の利益よりも他人の利益を優先する
②倫理的・道徳的スタンダードを遵守する
③社会的ニーズに応え、奉仕するコミュニティとの社会的契約を反映して行動する
④慈悲的価値観（正直さと尊厳・ケアと思いやり・利他主義と共感・尊敬・信頼）を明示する
⑤自己と同僚への説明責任を果たす
⑥卓越さを常に追求する
⑦学術活動と医学の進歩へコミットする
⑧高度の複雑さと曖昧さを扱う
⑨自分の行為と決断を振り返る

一般社団法人 日本専門看護師協議会 倫理規程

一般社団法人日本専門看護師協議会（以下、本会）は、専門看護師自らの高度実践の質保証や活動の場の拡大に取り組み、看護の質の向上をはかること、国民の健康の維持・増進のための政策提言を行い、その実現に向けて活動することを目的としている。

本会および会員は、日本看護協会が公表している「看護職の倫理綱領」の遵守を前提とすることはもとより、以下に定める倫理規定を遵守することを誓う。保健師助産師看護師職能集団の中でも特に高度実践看護師として、また国民の健康の維持・増進に携わる者としてこころがける点を明記し、遵守されるよう求めていく。

本規程の策定においては、本会会員が高度実践看護師としてのプロフェッショナルリズムを自らの行動で示すことができるよう、「新ミレニアムにおける医のプロフェッショナルリズム：医師憲章」の枠組みを参考にした。専門看護師は倫理規程を遵守し、その活動においてアンプロフェッショナルな行動をとることがないように、常に自らを律することが求められる。以下では3つの基本原則と10のプロフェッショナルとしての責務について述べる。

【基本原則】

患者の福利優先の原則

この原則は、ケアの対象となる人々（以下、ケア対象者）の利益に奉仕するという献身的な姿勢に基づいている。利他主義は、専門看護師とケア対象者の関係の中心軸になる信念であり、市場の力、社会的圧力、行政上の緊急事態によって、この原則が損なわれてはならない。

患者の自律性に関する原則

専門看護師はケア対象者の自主性を尊重しなければならない。専門看護師はケア対象者に対して正直かつ誠実であり、ケア対象者が自身の健康生活について情報に基づいた決定を下せるように支援する必要がある。ケア対象者の決定は、その決定が倫理的実践に沿ったものであり、不適切なケアの要求につながらない限り、最優先されなければならない。

社会正義の原則

保健医療福祉の専門家は、その資源の公平な配分を含め、関連制度における正義を推進しなければならない。専門看護師は、人種、性別、社会経済的地位、民族、宗教、その他の社会的カテゴリーに基づくかどうかにかかわらず、保健医療福祉における差別を撤廃するために積極的に取り組むべきである。

【プロフェッショナルとしての10の責務】

1. 専門看護師としての能力に関する責務

専門看護師の実践は、複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族及び集団に対する卓越した看護の実践であり、根拠に基づく実践（EBP）であることを強調する。看護学および関連する学問領域の、今日まで積み重ねられてきた知識を広く習得し、新しい知見、ケア

技術を取り入れ、これからの看護学に貢献できるよう生涯研鑽し続ける。専門領域のみならず保健医療福祉全般の発展と進歩のために、看護学の研究と新しいケア技術の開発普及に努める。

2. 患者に対して正直かつ誠実である責務

専門看護師は、対象となる人々が受ける医療について、同意する前、医療を受けた後にも、完全かつ正直に十分な説明が行われたことを確かめなくてはならない。また、対象となる人々が、自身の今後の医療の方向性について、自分の意思で決定することができるように努める。対象となる人々が自由な意思によって、意思決定し、行動することができるように可能な限り努める。医療現場におけるインフォームド・コンセントにおいては、患者に情報を開示し患者がその内容を十分に理解し、納得した上で自律的な決定ができるよう支援するように努める。言葉や文化の違いによって情報を正しく得ることができない外国人患者の診療についても、医療通訳を導入するなど、正確な情報の提供、患者の自律的決定を支援する。

3. ケア対象者の秘密を守る責務（守秘義務）

対象となる人々の信用と信頼を得るためには、個人情報 を明らかにする際は適切に秘密を保護せねばならない。この責務は、当事者自身からの同意を得ることができない場合も、本人に代わって活動する人々にも当てはまる。さまざまなデータが電子情報システムで広く活用される現代において、個人情報を守秘するよう一層努めなくてはならない。

また専門看護師の活動上、多職種と対象者の個人情報を取得・共有する場合は、対象となる人々から同意を得るように努める。ICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）を活用する場合もリスクも認識し、情報の正確性の確認や対象となる人々と自身のプライバシー権の保護など、細心の注意を払ったうえで情報を発信・共有する。

4. ケア対象者との適切な関係を維持する責務

専門看護師は、対象となる人々との適切な関係を維持すること、また関わるすべての職種と、互いを尊重しあい、協力して最善の医療を提供するよう努める。ケア対象者の傷つきやすさや依存性を考慮し、個人と特定の関係は避けなければならない。また、私的な目的のためにケア対象者を利用してはならない。

5. 保健医療の質を向上させる責務

卓越した看護実践の提供に際し、ケア対象者の健康の回復、維持を目標とし、身体的、精神的、経済的な不利益を生じさせないように努める。ケア対象者の利益よりも自らの利益を優先させる実践を行ってはならない。また、高度実践看護師の重要性を認識し、求められる責任を自覚するとともに、これに応えるよう努力をする。

6. 保健医療福祉へのアクセスを向上させる責務

専門看護師は、公平な保健医療福祉に対する責務として、経済力、居住地、障害、性別、性的指向・性自認、年齢、国籍などによって、保健医療福祉サービスへのアクセスが阻害されないように、いつでも、どこでも、誰でも、安全で質の高いサービスにアクセスする権利が基本的人権として平等に保障されるよう努力する。また、公衆衛生、予防の促進など社会全体への働きかけにより、保健医療福祉へのアクセスを対象者側からも高まるよう努力する。

7. 有限の医療資源の適正配置に関する責務

専門看護師は、対象となる人々のニーズに応えながらも、限られた資源を用いて、賢明かつ効率の良い医療を供給することが求められる。専門看護師は、費用対効果の高い医療をめざすガイドラインを医師と共に策定するよう努力する。

8. 科学的な知識に関する責務（医学・臨床研究）

専門看護師には、科学的根拠に基づいた患者のケアに最新の知識を統合し、積極的に研究に参加し新しい知見を見つける責任がある。また、高度実践看護師として、科学的な根拠だけでなく臨床経験にも基づく知識を発展させ、患者の治療やケアの質を向上させる役割がある。看護学研究や学会・論文発表に際しては、倫理的な基準を守り、ヘルシンキ宣言の原則に従うことが必要である。これらの責任を果たすことで、専門看護師は専門的なスキルと知識を維持し、最良のケアを提供できるよう努力する。

9. 利害の衝突の管理により信頼を維持する責務

専門看護師は、特に医療機器メーカー、製薬会社を含む営利企業との私的または組織的関係において私利私欲に走ると危機に瀕する場合がある。専門看護師としての業務や活動中に生じる利害を認識し、利益相反に関する事項を適切に開示し、公明性、透明性、独立性を担保することに努める。

10. プロフェッショナルの責任を果たす責務

専門看護師は専門職の一員として患者中心で効率の良いケアを最善とするために協力し、互いに敬意を払い、専門職としての基準に合致するよう自己規制の過程に参加することが期待される。また、現在および将来の専門看護師のための教育や規範を組織的に定めなければならない。

この倫理規定は 2024 年 7 月 8 日から施行する。